

# 大塩平八郎を考える

—与力・文人・武士—

藪田 貫 (兵庫県立歴史博物館 館長)

2018年6月12日

18:00~20:00

上智大学四谷キャンパス 10号館3階301会議室

**講演要旨:** 天保8年(1837)2月、大坂で起きた反乱で知られる大塩平八郎。その43年の人生は波乱に富み、同時に、謎に包まれている部分も少なくない。それは大塩を、毀誉褒貶相半ばする人物の代表とする要因となっている。講演では大塩に、与力・文人・武士の三つの視点から接近する。60家ある大坂町奉行所与力の一つとして、家職を継ぎ、14、15歳から38歳まで与力の階段を駆け抜け、みずから「三大功績」と呼ぶ功績を挙げた。彼の経歴の前半部分を構成し、生涯を下半身として規定しつづけた。対して上半身となったのは、私塾洗心洞主として門弟らを教えた学者としての姿で、篠崎小竹・頼山陽・平松楽齋らと交わる文人の一人として後半の人生を彩った。さらに彼には、<武士>たらんとした強烈なアイデンティティー志向があった。それは彼をして与力から文人に飛躍させ、さらに軍事蜂起して大坂の町を焼くという行為を取らせる遠因であった。

**略歴:** 1948年大阪府生れ。大阪大学大学院終了後、同大学助手をへて1979年4月から1990年3月まで京都橘女子大学助教授。1990年4月から2015年3月まで関西大学文学部教授。現在、同大学名誉教授。1999年4月~2000年3月にプリンストン大学、2009年4月~9月にカトリック・ルーヴェン大学に訪問教授として滞在。2014年から兵庫県立歴史博物館館長を勤めるほか、大塩事件研究会会長。

Lecture is in Japanese / No translation / No RSVP required

講演は日本語、通訳なし、事前登録不要

This talk is organized by Bettina Gramlich-Oka (Professor, FLA) for ICC Research Unit "Network Studies"

